

（募集期間R1.11.11～R1.12.10）

	関連するまちづくりビジョンの箇所	提案・意見の概要
1	将来像	市の将来像は「住んで楽しいまち よなご」とあるが、「楽しいまち」ではなく「活気のあるまち」若しくは「活気みなぎるまち」の方が良い。 「楽しい」は「楽（らく）」に通じる。困難な課題に失敗しても何度でも挑戦できる、活気みなぎる街をめざす。特に次代を担う世代にあらゆる分野で挑戦的にいきしてほしい。 活気は人が集まり作り出すもの。米子は未来永遠に、活気あるまちであるべき。
2	公共交通を中心とするまちづくり	まちづくりの基本目標について、「インフラ（社会的共通基盤）の整備」にしてはどうか。 ○ひと・もの 自由な往来を実現する交通網の整備が必要 ○資金・情報 インターネット環境の整備が必要 公民館にインターネット環境を整える。また、図書館、美術館、体育館、市役所など市の公共施設すべてにインターネット環境を整備し、無料で使い放題としてはどうか。または、時間を区切って優良とするなどしてはどうか。
3	公共交通を中心とするまちづくり	和田町には店が無い。平成30年に免許返納をした。 だんだんバスについて、旧市内と新市内との差、いつもどうしてかと思う。週1回でも通ってほしい。高齢者には意見をできる場所がない。
4	市民が主役の共生のまちづくり	これからは行政主体のまちづくりではなく、当事者意識を持った市民が主体的に参画するまちづくりをすることが必要。 市民は、行政サービスの受益者としてだけでなく、自らが様々な形で必要なサービスを提供し、一人ひとりがまちづくりの主役となる、市民参画・市民参加のまちづくりが重要。このことをまちづくりの理念として施策を進めることが重要。
5	市民が主役の共生のまちづくり	資金について、税金の形だけではなく、種々の自由活発なファンドを活用してはどうか。
6	市民が主役の共生のまちづくり	まちづくりのアイデア（知恵）について、パブリックコメントだけではなく、SNSを利用したサイバー空間での議論をしてはどうか。
7	市民が主役の共生のまちづくり	ボランティアについて、実際に顔の見える関係での協力が必要。
8	市民が主役の共生のまちづくり	まちづくりの基本目標について、「市民が主役の共に生きるまちづくり」は「共に生きるまちづくり」にしてはどうか。 支えあうだけでは共倒れになる。互いに競い合うことでより強くなり、その結果として支え合っていることになる。
9	教育・子育てのまちづくり	まちづくりの基本目標について、「教育・子育てのまちづくり」は「子育て・教育」にしてはどうか。

	関連するまちづくりビジョンの箇所	提案・意見の概要
10	地産外商・所得向上をめざすまちづくり	まちづくりの基本目標「新商都・所得向上をめざすまちづくり」は「新産業創出」にしてはどうか。 商都米子の復活にこだわらないことがポイント。 周辺地域から人が集まり買物をするのでにぎわう商都米子ではなく、ブランド化した物・サービス業を提供することにより他にはない競争力を持つ、産業を創出するまちであることが大切。 農業、工業、サービス業を次々と新しい発想で生み出し、域内流通にこだわらず、インターネットを活用して、全国、海外へ物・サービスを提供することが大切。
11	歴史と文化に根差したまちづくり	歴史・文化に根ざしたまちとは何のためなのか。人が集まる、にぎわいのあるまちとするために、観光、教育資源として地域ブランドの風土づくりをするのであって、それ自体が目的ではない。
12	スポーツ健康まちづくり	まちづくりの基本目標について、「スポーツ健康まちづくり」は「スポーツ・文化芸術はなひろく」にしてはどうか。 スポーツ・健康の施策は余暇活動としてのスポーツ振興に特化するだけでなく、競技スポーツ振興を第一として位置づけるべき。競技スポーツのすそ野の広がりの中に、幅広い年代の健全な余暇活動としてのスポーツ、文化芸術活動がある。
13	災害に強いまちづくり	まちづくりの基本目標について、「災害に強いまちづくり」は「防災・減災」にしてはどうか。 災害に強いまちづくりは、環境（自然、施設）づくりよりも人のつながり、地域づくりによる災害対応が重要。様々な想定を具体的にし、訓練をすることが大切である。
14	その他	25,000円のプレミアム商品券について、広報で出先機関等で手続きができると見たが、そんな親切はなかった。広報で参加店が載っていただけで、その前の手続きが分からない。市役所まで1,000円のバス代を使って出かけて、手続きが一回だけではできない。もっと有効な手立てはないか。